

はじめに

お久しぶりです。

私がブリーフセラピーに関連する本を出したのは、『森・黒沢のワークショップで学ぶ 解決向ブリーフセラピー』（森俊夫・黒沢幸子著、二〇〇二年四月、ほんの森出版）が最後ですから、何と一二年ぶりのお久しぶりです（ウワツ、そんなに経ってたんだ！ ちよつとビックリ。共著者の黒沢先生は、この間、何冊も出しておられるけど）。

その間、私は歳を取り、頭も身体も確実に老化が進んでおりますが、心理臨床のほうはどうだろう……何かあんまり発展してない感じだなあ（精神医学や薬学についての知識は増えたが）。まああえて言えば、昔に比べると、まろやかな面接が増えたかな？ 少なくともケレン味は減りましたね。普通の何気ない面接をよくするようになりました。その代わり、切れ味は鈍くなったような気がしないわけでもないですが、でもきつとこれは「発展」なんだらうと、自分で思い込むようにしている今日この頃です（いかんいかん、文章が何か「お

わりに」のような雰囲気になってきた。「はじめに」に戻そう。

本書は、したがって、一二年前に出した「ワークシヨップ本」や、その他のブリーフセラピーに関する本を読まれ、そして実践を積み重ねてこられた方が、さらなる発展を遂げるために書かれたもの、そういう位置づけの本です。え？別に本書を読まなくて、もうすでに発展してゐるって？そりゃ失礼しました。そういう方の場合、ご自分の発展を確認するために、ぜひ本書をお読みください。

一応、本書は、ここで初めてブリーフセラピーにふれるという方も読めるように書かれています。そもそも本書は、『月刊学校教育相談』二〇一二年四月号〜二〇一四年三月号に、全二四回の連載として掲載されたものを、編集してつくられたものです。雑誌の読者が全員ブリーフセラピーをご存知であるはずがないわけですから、知らない方も読めるようになっていきます。だから、まず本書から読み始められて一向に構いません。ただし、どこかの時点からは、より基本的なブリーフセラピーの本（宣伝するわけではありませんが、やはりおすすめは『森・黒沢のワークシヨップで学ぶ』解決志向ブリーフセラピー』です）も並行してお読みいただくことを、お勧めいたします。

『月刊学校教育相談』の読者層は学校の先生ですが、もちろん本書は学校の先生だけに向けられたものではなく、広くブリーフセラピーに関心をお持ちのすべての方々に読んでい

ただきたいと思っています。
さて、では始めましょう。ブリーフセラーピーの「極意」が皆さんに伝わるかどうか？楽しみです。

二〇一四年六月

森
俊夫

